これからごはん

作　北海道帯広柏葉高等学校演劇部＋五十嵐　英実

登場人物

真奈美

母（真奈美の母親）

亘（真奈美の兄）

伯母（真奈美の伯母　スミエ）

めぐみ（真奈美の従姉妹）

叔父（真奈美の叔父　敏行・めぐみの父親）

後藤（真奈美の祖母の隣人）

告別式の早朝。祖母（故人）の家。布団が敷きっぱなしの和室。ここに泊まった真奈美と母親が何かを探している。壁には真奈美の制服と母親の喪服が掛かっている

母　なんか思い出した？

真奈美　ああ、今思い出しそうだったのに。話しかけないでよ。

母　せっかくヒント出そうとしてるのに。それ、いつ言われたの？

真奈美　一緒に住んでたとき。

母　いくつくらいのとき？

真奈美　わかんない。

母　ちっちゃいとき？

真奈美　わかんない。

母　なんで忘れるの。

真奈美　しょうがないじゃん。

母　ばあちゃんが、真奈に頼んだんだから覚えておいてくれないと。

真奈美　頑張ってるんだから、ゴチャゴチャ言わないで。そっちこそ娘なんだから、なんか思いつかないの？

母　母さんも言われてたら覚えてると思うけど。

真奈美　言われてたらとかじゃなくて、おばあちゃんのこと考えたら、わかるんじゃない？

母　んー、写真。

真奈美　ちゃんと考えてるっ？
母　考えてるよ。手紙は？
真奈美　違う。
母　櫛じゃない？ほら、京都のおみやげに買ってきたじゃない。
真奈美　それ、去年でしょ。
母　ああ。日記？
真奈美　つけてたの？
母　いや、わかんない。
真奈美　（ため息）
母　あ、ほら、この扇子は？
真奈美　（無視）
母　あ、真奈、真奈、真奈、ほら、ほら、ほら、その人形は？
真奈美　違うし。
母　何が違うの？
真奈美　なんでも。
母　何怒ってるの。
真奈美　怒ってないし。
母　怒ってるしょ。
真奈美　母さんが怒らせてるんでしょ。全然違うものばっかり言って。

亘が部屋に入ってくる

亘　何やってんの？うるさくて寝れないんだけど。

母　あらっ、亘もこっちに泊まったの？

亘　うん。

母　お寺のほう頼むよって言ったしょ。

亘　父さんたち残ってるから、いいしょ。

母　だって、みんな酔っ払ってたでしょ。灯明とお線香絶やさないでって言ったじゃない。

亘　叔父さんが朝まで起きてるって。

母　敏行が？

亘　うん。

母　大丈夫かな？

亘　大丈夫なんじゃない。だいたいさ、おふくろが残るもんなんじゃないの？娘なんだから。

母　そうだけど、めぐちゃんに誰かついてなきゃならないしょ。お腹大きいんだから。

亘　じゃあ、叔父さんがこっちに泊まればよかったんじゃない？

母　敏行じゃ、なんかあったときオロオロするだけでしょ。

亘　そうかなあ。

真奈美　兄ちゃんも、手伝って。

亘　何を？
真奈美　おばあちゃんのお棺に入れるもの。
亘　どういうこと？
母　探してるの。お棺に入れるもの。
亘　昨日用意したじゃん。
母　それがなんかね、真奈が昔ばあちゃんに頼まれたものがあったんだって。死んだとき、これをお棺に入れてくれって。
亘　なんで昨日言わないんだよ。
真奈美　しょうがないしょ、さっき思い出したんだから。
亘　で、これってのは？
母　それがわかんないのよ。
亘　は？
母　だから、その入れてくれっていう、肝心の「これ」が思い出せないんだって。
亘　え、じゃあ何探せばいいかわかんないのに探してんの？
母　そう。
亘　中途半端に思い出すなよ、そういうこと。
真奈美　兄ちゃんに言われたくないし。
亘　はあ？俺のどこが。
真奈美　中途半端じゃん。仕事辞めて。
母　兄ちゃんには兄ちゃんの生き方があるの。

真奈美　何それ。意味わかんない。なんで母さん許すの？
母　それは今はいいから。ねえ、亘も探して。
真奈美　兄ちゃん聞いてないの？
亘　何を？
母　お棺に入れてほしいもの。
亘　いや、聞いてたら覚えてるよ。真奈美と違って。
真奈美　何さ。
母　いちいちけんかしないの。
亘　おふくろは、聞いてないの？
母　母さんも言われてたら覚えてると思うんだけど。
亘　だよね。

そこへ大きなお腹を抱えためぐみが入ってくる

めぐみ　おはようございます。
真奈美　めぐちゃーん。
亘　あ、めぐ。
めぐみ　あ、おはよう。
母　ごめん、めぐちゃん。起こしちゃった？
めぐみ　目が冴えちゃって。

母　もっと寝てたら。
めぐみ　大丈夫です。
真奈美　ねえ、めぐちゃん、聞いてない？
めぐみ　何を？
真奈美　おばあちゃんのお棺に入れるもの。
めぐみ　おばあちゃんから？
真奈美　うん。
めぐみ　直接？
真奈美　うん。めぐちゃんも、おばあちゃんと暮らしてたことあったんでしょ。
めぐみ　うん。でも、言われてないと思うな。
真奈美　じゃあ、あたしだけか。
めぐみ　なんて言われてたの？
亘　忘れちゃったんだって、何入れるか。頼まれてたのに。
真奈美　だから思い出そうとしてんじゃん。
母　早くしないと。あんまり時間ないからね。
真奈美　あるでしょ。
母　七時にはお母さんお寺に行かなきゃならないから。
真奈美　何それ？
母　お父さんたちに朝ごはん持っていかないと。だから、五時半くらいになったらごはん支度するからね。

真奈美　そんなこと聞いてないし。
母　言ったしょ、昨日。
真奈美　朝早いって、何時か言ってないじゃん。
母　だいたいわかるしょ。
真奈美　わかるわけないし、五時半なんて。
母　告別式が十時でしょ。九時前には全部終わらせておかないと。
亘　だから、早く思い出せよ。真奈美が思い出せば、全部解決、
真奈美　せかさないでよ。
めぐみ　あっ、スミエ伯母さんなら、聞いてるんじゃない？
母　ああ。
真奈美　聞いてきてよ。
母　まだ、寝てると思うよ。
真奈美　時間ないんでしょ。
母　わかったわよ。

母、出ていく

亘　俺、スミエ伯母さん苦手。そう思わない？
めぐみ　そんなに話したことないし。
亘　そっか。（出ていこうとする）

真奈美　どこ行くの？
亘　顔洗ってくる。

亘、出ていく

真奈美　なんなんだろうなー、おばあちゃんが入れてほしかったもの。
めぐみ　どんな形とか、何をするものとかわかんないの？
真奈美　手紙とか写真とかそういう紙みたいなものじゃないと思う。
めぐみ　ふうん。ねえ、真奈ちゃん。
真奈美　何？
めぐみ　どうしたの？
真奈美　え？何が？
めぐみ　なんかおばさんにキツくない？
真奈美　だって、あの人意味わかんないんだもん。
めぐみ　お母さん？
真奈美　うん。人のことなんも考えてないし。
めぐみ　何かあったの？
真奈美　めぐちゃんさ、大学行くとき、おじさんに反対された？
めぐみ　うーん、いや特には。
真奈美　えーっ、そうなの？

めぐみ　うん。
真奈美　だってあんな遠いのに。行くなって言わなかった？
めぐみ　いや、どっちかっていうとうちは、お父さんを一人で家に残すのが心配で。反対されてるの？大学。
真奈美　その逆。好きにしていいって。
めぐみ　じゃあ、いいじゃない。
真奈美　良くない。だって、なんにも話し聞いてくれないんだよ。好きにしなさいって、そればっかり。
めぐみ　迷ってるの？
真奈美　うん。それで、どうしたらいいって聞いてるのに、「母さんは、知らないよ」って。ひどくない？
めぐみ　信頼してるんじゃないの。
真奈美　違う。全部そうだもん。兄ちゃん仕事辞めたのだって、なんも言わないの。
めぐみ　あ、やっぱり辞めたんだ、仕事。
真奈美　ずっと家に居るの。仕事も探さないで。なのに母さんなんも怒んないの。
めぐみ　おじさんは？
真奈美　父さんは言うよ。でも、母さんがかばってて。なんか、見ててイライラする。
めぐみ　そうなんだ。
真奈美　さっきだって、「兄ちゃんには兄ちゃんの生き方がある」とか言って。それって何も子どものこと考えてないってことじゃない？

亘、戻ってくる

亘　思い出したか？

真奈美　まだ。

亘　ばあちゃん、成仏できないぞ。

真奈美　うるさい。

めぐみ　いつごろ頼まれたの？

真奈美　まだ、ここに一緒に住んでたとき。

めぐみ　わたしがおばあちゃんに預けられてた後だよね、引っ越してきたの。

真奈美　うん。

亘　あれ以来、お母さんには会ってないの？

めぐみ　うん。

真奈美　兄ちゃん。

亘　あ、ゴメン。

めぐみ　いいよ、昔のことだもん。

真奈美　ごめんね。

めぐみ　いいって。会いたいって思ったこともないしね。

間

めぐみ　いつまでここに住んでたんだっけ。
真奈美　小二まで。
めぐみ　じゃあ、小一か小二の頃かな。
真奈美　たぶん。
亘　遊んでもらってたときのことなんじゃないのか。
真奈美　そうかも。
めぐみ　おばあちゃん何して遊んでくれてた？
真奈美　なんだっけ。
亘　下の句カルタ。やんなかった？
めぐみ　教えてもらった。
亘　やったしょ、正月とか。
真奈美　なんか、おばあちゃんの十八番あった。お気に入りの歌。なんだっけ。
めぐみ　ああ、あったね。
真奈美　われてもすえに、
めぐみ　あわんとぞおもうっ。
真奈美　そう、それっ。
亘　瀬をはやみ　岩にせかるる滝川の　われても末にあはむとぞ思ふ
真奈美　どういう意味？
亘　今は離れ離れでも、やがて一緒になろう、みたいな。

めぐみ　おじいちゃん。
真奈美　えっ？
めぐみ　あの世とこの世で離れ離れだったけど、また一緒に暮らしましょう、みたいな感じ？
真奈美　ああ、それだ。
亙　二人にとって、思い出の歌だったとか。
めぐみ　カルタ大会決勝戦。

にらみ合う亙、真奈美。真奈美の手が札を叩き飛ばす。うなだれる亙

真奈美　私のほうが一枚上手だったな。
亙　こんな強い相手初めてじゃ。おらの嫁になれ。
亙　みたいな。おじいちゃんヤベー。
めぐみ　カルタ大会の決勝戦。
真奈美　三時間くらいの長い戦い。
亙　観客全員、見守る中。
真奈美　出会った二人。それでそのまま結婚。
めぐみ　あの歌は思い出の札。

真奈美　古い木のやつあったよね。

百人一首のセットを探し始める三人

真奈美　あった、これじゃない？

めぐみ　あ、それだ。

真奈美　兄ちゃん、これ。（一枚の札を見せ）

亘　印だ。

めぐみ　ハートマーク。

真奈美　おばあちゃん。

亘　証拠じゃん。

めぐみ　決め手だね。

真奈美　母さんに報告。

亘　決定、決定。

真奈美　絶対これ。

そこへ母と伯母、入ってくる

真奈美　あったよ。

母　思い出したの？

亘　あった。見つけた。
真奈美　これじゃない？おじいちゃんとおばあちゃんを結びつけた百人一首。
亘　百人一首で恋に落ちた二人。
伯母　何それ。
母　おじいちゃんカルタできないよ。
伯母　見合いだし。
真奈美　じゃあ、それは？（ハートマークを見せる）
母　あんたがちっちゃいとき書いたんでしょ、いたずらして。
伯母　ああ、こんなことして。
亘　じゃあ、またふりだしってこと？
真奈美　いい線いってると思ったんだけどな。
伯母　真奈ちゃん、大事なこと忘れちゃだめじゃない。
真奈美　すいません。
伯母　めぐみちゃん、あなたも探してるの？だめじゃない。休んでなきゃ。
めぐみ　大丈夫ですよ。
母　告別式の間辛くなるから、今のうちに休んどきなさい。
めぐみ　本当に大丈夫なんで。
伯母　旦那さんは？来ないの？
めぐみ　あ、今回はちょっと。
伯母　もう、おばさんびっくりしちゃったよ。敏行がなんにも言ってくれないから。

めぐみ　あ、お父さんは…
伯母　まっ、それはいいんだけど、ちゃんと紹介してね。旦那さん。
めぐみ　ああ、はい。
伯母　敏行も、何考えてるんだか。ねえ。
母　そうだね。
めぐみ　すみません。
伯母　いや、めぐみちゃんが謝ることじゃないんだよ。敏行がしっかりしてないからさ。
めぐみ　はあ。
母　ね、めぐちゃん、向こうで休んでなさい。
伯母　それがいいわ。まだ五時にもなってないし。
真奈美　めぐちゃん行こう。
亘　真奈美、邪魔するなよ。
真奈美　あっちの部屋も探してくるんだし。
母　めぐちゃん疲れてるんだからね。
真奈美　わかってる。行こう。
母　邪魔するんじゃないよ。
真奈美　うううう。

めぐみ、戻る。真奈美、付き添っていく

伯母　反抗期？
母　そう。
伯母　だって、もう高三でしょ。ちょっと遅くない。
母　まあね。
伯母　亘はいつごろだったっけ？
母　どうだったろう。あったかい？
亘　さあ、忘れた。
伯母　反抗期がないと、社会人になってから危ないんだよ。
母　そうなの？
伯母　そう。あたしの教え子にもさ、いきなり仕事辞めて帰ってきちゃったの、何人もいるんだから。
母　それ反抗期と関係あるの？
伯母　まあ、いろいろなんだけどね。
母　へー。
伯母　亘はどう？仕事。
亘　はあ、まあ。
伯母　もう三年くらいかい？
亘　まあ。そうですね。
伯母　ねえ、ゲームの会社って、ほら景気とか関係あるの？
母　さあ。

伯母　出世して、ほら伯母さんの面倒も見るんだよ。
亘　…
母　ぼちぼちやってくれれば、それでいいから、母さんは。
亘　…。ちょっと、俺も納戸見てくるわ。
母　ああ、頼むね。
亘　納戸。納戸納戸。

亘、出ていく

伯母　彼女とかいないの？
母　いないみたい。
伯母　突然連れてきたりして。
母　まさか。
伯母　いや、わからんよ。
母　えーっ。
伯母　あ、これ。
母　何それ。
伯母　パークゴルフの賞状。
母　ああ。町内会の大会の。
伯母　準優勝って。

母　足折るまで、やってたよね。

伯母　母さんもさ、あのとき足折ってなかったら、もうちょっと長生きできたかもしれないよね。

母　…

伯母　どうしたの？

母　一緒に住んでれば良かったのかな。

伯母　なんで？

母　だって、一人暮らしじゃなかったら、蛍光灯、母さんが自分で取り替えるなんてこともなかったわけでしょ。

伯母　そうだけど。何？あんたのせいじゃないからね。

母　そうだけどさ。

伯母　母さんが、この家に残るって言ったんじゃない。母さんの部屋だって作ってあったんでしょ。

母　うん。…けど、家建ててここ出たとき、正直ホッとしたんだよね。

伯母　何年一緒に住んだんだっけ？

母　真奈美が三つのときからだから、（指を折って数え）五年。

伯母　あんたにしては、よく我慢したよね。

母　父さん死んだ後、一人にしておけない感じだったからね。

伯母　うん。

母　真奈美も懐いてたし。

伯母　それにしてもさあ、あんた本当に母さんと合わなかったよね。
母　子どもが自分の言う通りにならないと気がすまない人だったから。
伯母　適当に話し聞いておけばいいのに。母さんだって、それがあたしたちのためだと思ってたわけなんだし。
母　姉ちゃんみたいに、要領よくないからさ。
伯母　ま、だからさ、ずっと一緒にいてゴタゴタするより却って良かったんじゃない？
母　うん。
伯母　母さん、一人にしてたのはさ、あたしにだって責任あるわけだし。
母　うん。
伯母　敏行だって同じでしょ、そこは。最期は看取ってあげられたんだしさ。
母　まあね。
伯母　孤独死なんてことになってたら、悔やんでも悔やみきれなかったけどさ。
母　うん。
伯母　それにしてもなんか真奈ちゃん、だんだんあんたに気性が似てきたんじゃない？
母　なんか扱いにくくなってきて。
伯母　なんかあった？
母　進路のことでさ。
伯母　わかった。反対したんでしょ。
母　逆。
伯母　逆？

母　好きにしなさいって言ったのに、むくれてるの。ここんとこずーっと。わけわかんないんだから。

伯母　好きにしなさいと言いながら、それは駄目とか、これは無理とか言ってるんじゃないの？そういう母親、多いよ。

母　ううん、全然。母さんみたいに子どもを自分の言いなりにしたくないの、わたしは。

伯母　（布団を片付けながら）ふうん、そうなんだ。

母　うん。

伯母　だけどさ、登山家になりたい、とか、宝塚に入りたいって言われたらどうする？

母　それはないでしょう。

伯母　そうだけどさ。

母　正直、何言い出すか心配は心配なんだけど、自分で決めてほしいんだよね、ちゃんと。

伯母　まあ、それはそうだね。

伯母　母さんみたいになりたくない。か。

母　えっ？

伯母、押入れに仕舞った布団に顔を埋めている

母　…何やってんの？

伯母、手招き。母、怪訝そうな顔をして近づく。同じように布団に顔を埋める

母　…うちの匂い。

母と伯母、姉妹にかえって微笑み合う。亘、茶箱を持ってくる

亘　何してるの？

母　なんでもないよ。

亘　ねえ、この中にありそうじゃない？

母　何入ってるの？

亘　なんか工作みたいなもの。

子どもの作った工作や絵が出てくる

母　これ、あんたが作った迷路じゃない？

亘　えーっ、こんなの作ったっけ。

母　確かあんただよ。あっ、これ、真奈が作った人形。

伯母　へえ、こんなのとってあったんだね、母さん。

亘　おふくろがとってあったんじゃないの？
伯母　あっそうか。そうだよね。あんたがとってあったんでしょ。
母　うん、そうなんだけど。引っ越すときにあらかた捨てたんじゃなかったかな。
伯母　え、じゃあ、母さん、それ拾ってきたの？
母　まさか。
亘　これは？
伯母　あらっ、これあたしの賞状。あんたのもあるよ、ほら。
母　ああ。

真奈美が戻ってくる

真奈美　何見てるの？
亘　これ。おふくろ、習字、うまかったんでしょ。
伯母　ばあちゃん、厳しかったからねえ。
母　何回も練習させられたよね。
伯母　そう。ものさしでビシッてね。
母　そう。
亘　何それ。
伯母　うまく書けないと、叩くの。
真奈美　嘘だあ。

伯母　本当。
亘　へえ。
伯母　ああ、そうだ。今のうちにあんたに言っておくわ。
母　何？
伯母　あたしさ、退職したら住宅型のホームに入ることにしたから。
母　ホームって？
伯母　一人暮らしもさ、元気なうちはいいけど、病気になったりしたら大変だからさ、なんかあったら介護してもらえるホームに入ろうと思って。
真奈美　そんなのあるの？
伯母　お金払えばね。
母　わたしたちと暮らせばいいしょ。うちだって子どもたちは出てくんだから。
伯母　今更、誰かと暮らすのも。元気なうちは気楽にしてたいし。
母　調子悪くなってからでもいいしょ。
伯母　老老介護って大変なんだってよ。
母　老老介護って？
伯母　老と老でしょ。
母　ええっ。
伯母　いいの、お金はあるから。でも、最後だけ、葬式だけは面倒見てね。墓は父さん母さんと一緒でいいから。
母　それはいいけど、何も今そんな話しなくたって。

伯母　忘れないうちにさ。あっ、でも、あんたが先にってこともあるのか。
母　嫌なこと言わないでよ。
伯母　そんときはさ、亘、頼むよ。
亘　はあ。
母　人の息子、当てにしないでよね。
伯母　じゃあ、真奈ちゃん。
真奈美　あっ。
母　思い出したの？
真奈美　なんかスイカ食べてた。
母　スイカ？スイカ入れてほしいって言ったの？
伯母　母さん、好きだったもね。
真奈美　スイカ入れてくれなんて言わないしょ。
伯母　スイカはないでしょ。ねえ。
真奈美　その時夏で。暑くて。あ、あと、おばあちゃんの麦茶。いっつも綺麗なグラスに入ってて。
伯母　切子グラス？探してみるか。
真奈美　あ、あと風鈴聞いた。金魚付いてた。
伯母　風鈴？グラス？どっち？
母　それ母さんが小樽旅行行ったとき自分で作ったやつだ。ほら金魚鉢の絵の。
伯母　そうなの？でも、ガラスってどうなの？お棺に入れてもいいの？

真奈美　ええっと、スイカ食べて、麦茶飲んで、風鈴が鳴ってて。それで、
母　で、なんだったの？
真奈美　わかんない。
母　思い出したんじゃないの？
真奈美　頼まれたときのことを思い出したの。
亘　なんだよ、それ。
真奈美　もうすぐ思い出すかもしんないじゃん。
伯母　なんだろうね。
亘　そのへんの物を見たら思い出すかも。
伯母　ああ、風鈴とか見たら記憶がパーッとね。
亘　そう。

四人で、また探し始める。押入れ中のの古い旅行鞄からポップーコーンが出てくる

母　なんで？
伯母　何？
母　ポップコーン入ってた。こんなに。
伯母　ええっ？
真奈美　それ、おばあちゃんが買っておいてくれたんだよ。

伯母　え。

母　ああ、真奈に。

真奈美　うん。あたしが、これ美味しいよって一回買ってきたら、次からいつも買っておいてくれて。

母　へえ。でも、母さんなら自分で作りそうなもんだけどね。

真奈美　ポップコーン？

母　作ってくれたことあったよね。

真奈美　えー、いいなあ。

伯母　おやつはなんでも手作りだったよ。

母　売ってるものは、着色料とか体に悪いものばっかりって言ってね。

伯母　そうそう。

母　だから、なおさら。

伯母　真奈ちゃんが好きだって言ったからじゃないの？

母　だからって、こんなに沢山。

真奈美　買いだめしておいてくれたんじゃない？さっき、箪笥の中にもあったよ。

伯母　箪笥？なんでまた箪笥なんかに。

母　変だねえ。

亘　これ、なんだろう？

箪笥の上の手提げからおしめが出てくる。一枚一枚丁寧に縫われている

母　えっ。あら、おしめ。
伯母　ずいぶん新しいね、これ。
母　母さん、知ってたんじゃない。
伯母　何を？
母　めぐみのこと。
伯母　どうして。
母　この子たちがお腹にいるときも、母さん、おしめ縫ってさ。
亘　へえ。
母　紙オムツ使うからいいって言うのに。
伯母　知ってたのかな？
母　敏行が知らせてたのかい。
伯母　どうなんだろう。あんたさ、めぐみちゃんの相手こと、何か聞いてる？
母　いや。
伯母　聞いてないんだ。
母　向こうが言わないのに、こっちから聞くのも、ねえ。
伯母　ちゃんとした人なの？
母　たぶん。
伯母　籍は？
母　そりゃ、もう子どもも生まれるんだから。

伯母　入れたの？
母　たぶんね。
伯母　なんにも、聞いてないの？
母　全然聞いてないよ。寝耳に水もいいところ。
伯母　だって大学生でしょ。どうすんの、これから。
母　めぐみは、大丈夫でしょ。
伯母　どうしてわかるの？
母　小さいときから、苦労してるんだから。
伯母　それは言い切れないでしょ。
母　何かあっても、敏行がいるんだし。
伯母　そこが心配なんじゃない。（一瞬勘違いして）敏行…亘は何か聞いてないの？
亘　いや。特に。
母　あんたたち、仲良かったしょ。
亘　まあ、子どもんときとは、違うから。
真奈美　母さん、話してないで探してよ。時間ないんでしょ。
母　何怒ってるの。
真奈美　怒ってないし。
伯母　しっかりしてたのにね、めぐみちゃん。やっぱり母親が付いてないとダメなんだねえ。
真奈美　伯母さん。

伯母　え？ああ、ごめん。風鈴ね。風鈴。

亘　俺って、おしめだったんだ。

母　おしめ？

亘　使ったんでしょ。

母　ああ、真奈のときには使ったよ。

亘　え？俺のときには？

母　うーん。

亘　何それ。

伯母　紙オムツ。でしょ？

母　…

亘　どうして？

伯母　ばあちゃんの言うこと、素直に聞いたことないんだから。あんたたちの母さんは。

亘　そうなの？

伯母　親の言いなりにはね、なりたくなかったんだって。

母　そんな話は今いいから。

母、押入れの奥を探す

真奈美　伯母さんは？

伯母　わたし？わたしは、ほら、いい子だったからね。

真奈美　叔父さんも？

伯母　敏行は末っ子だから、上が怒られるようなことは絶対しなかったからね。まあ、それでも厳しかったよ。テレビとかドリフターズなんて絶対見せてもらえなかったし。あ、マンガも家じゃ読めなかったんだから。

真奈美　そうなの？なんか想像できない。

母、押入れから出てくる

母　これ、なんだろう？

包装紙に包まれた本らしきものが出てくる。開けてみると少女マンガだ

伯母　え。

母　これ。

伯母　これ、開けていいのかい？

母　いいんじゃない。

兄　何、これ？

伯母　なんで？

真奈美　りぼんだ。こっちはちゃお。

伯母　プレゼントか何かかい？
母　真奈に買ってくれたんじゃないの？
真奈美　買ってほしいなんて言ったことないけど。
母　でも、読みそうなのあんたくらいしかいないでしょ。
亘　野球盤だ。
伯母　亘にかい？
亘　いやあ、野球盤とかで遊んだことないし。
伯母　そうなの？
亘　これってさ、父さんみたいな年代の人が、今懐かしがって買ってるらしいよ。
母　そうなの。
亘　ほら、昔は買えなかったけど、今はお金持ってるでしょ。父さんも、この前、仮面ライダーのなんか買ってきてたしょ。
真奈美　ああ、あれ。
伯母　そういえばさ、敏行も昔ほしがってたよね、こういうの。
母　そうだった？
伯母　なんかさ、嘆願書みたいなの書いたりして。買ってくれるまでごはん食べないとか。やってなかった？ハンスト。
母　ああ、してたかも。わたしは、ねだったことないな。最初から、諦めてたし。
伯母　あんたは、そうだったよね。
母　うん。

伯母　あたしも、絶対買ってもらえなかった。
母　何？
伯母　りぼん。
母　これ？
伯母　そう。
亘　まさか。
伯母　何？
亘　伯母さんに買ったんじゃないのかな。
母　どうして？
亘　いや、わかんないけど、買ってあげれば良かったって、思ってたとか？あのさ、叔父さんは野球盤がほしかったんだよね？
伯母　後悔してたっこと？
母　何を？
伯母　子育て。
母　まさか。信念の人だったしょ、母さんは。
亘　でも、ほら。

マンガ、野球盤

母　何それ、昔と今がゴッチャになってたってこと？

亘　ボケてたとか…

母　変なこと言わないで。普通に暮らしてたしょ、ばあちゃん。

真奈美　そうだよねえ。

母　入院する前は、一人でバスにも乗ってたんだし。

伯母　そうだけど。部分的に物忘れしたりってこともあるんじゃない？

亘　さっきのポップコーン。

伯母　ああ。買ったのも忘れて、どんどん買ってきちゃったってこと？

亘　そうかも、そうかも。

真奈美、何かを確かめるように探しだす。亘るも、押入れの中などを見る。伯母も恐る恐る茶箱の中などを見てみる

亘　これ。

おしめが出てくる

真奈美　また？

母　…

伯母　これ、あんたにかな？（母におしめを渡す）

母　…

真奈美　マンガや野球盤ならわかるけど、おしめはなんで？
伯母　母さんなりに、考えていたんじゃないの。あんたが喜ぶもの。
母　…
亘　だけど、おふくろはおしめいらなかったんでしょ。
伯母　これしか思いつかなかったのかもね。
真奈美　なんか、おばあちゃん、かわいそう。
伯母　どうして？
真奈美　せっかく縫ってくれたんだから、使えばよかったのに。兄ちゃんのときだって。
伯母　それは、いろいろ考え方があるから。
真奈美　でも、おばあちゃんのこと考えたら。母さん、人の気持ちなんにも考えてないんだもん。だから、おばあちゃんが何入れてほしいのかだって、全然思いつかないんじゃないの。
亘　真奈美。
伯母　真奈ちゃんのときは、使ったんでしょう？おしめ。
母　…
伯母　嬉しかったんじゃないの、母さん。だから、ほらこうやって、
母　聞いたことないよ、そんな話。

母、何を探していいかわからない。が、探し始める

亘　真奈美が忘れるからだろう。ヒントがないのにどうやって探すんだよ。
真奈美　何さ。
亘　べつにおふくろが悪いってわけじゃないだろう。
伯母　まだ思い出せないの？スイカと麦茶と、なんだっけ。
亘　夏だったんだろう？あと何かなかったか？何でもいいから、
真奈美　黙っててよ。えーっと、ん、花？
伯母　え？
真奈美　花。
亘　花？
伯母　花って？
真奈美　いや、庭か？
亘　庭か？
真奈美　いや、花？
亘　どっち。
伯母　どういうこと？
真奈美　母さんの代わりに、病院に付き添ってたときに言われた。
母　なんて？
真奈美　春になったら、下駄箱の中にひまわりの種があるから、それを庭に植えてくれって。
伯母　お棺に入れるんじゃないの？

真奈美　そのとき、思い出したの。ああ、昔、おばあちゃんに頼まれたことあったなーって。

母　そのときは、ハッキリと思い出したの？

真奈美　確か。

母　だったらどうして覚えてないの？

真奈美　だって、おばあちゃんが死ぬなんて考えたくなかったから。

母　…

伯母　で、どうなの？思い出せそう？

真奈美　庭。庭に行ってみたら思い出せそう。

伯母　庭？

真奈美　うん。庭。

真奈美、駆け去る。その後に亘、伯母が続き、…母は残る。マンガ、野球盤、そして、おしめの山

母　…

真奈美、戻ってくる。気落ちしている母を見て、少し戸惑うが、茶箱の中を探し始める。伯母、亘が入ってくる

伯母　なんか思い出したの？
母　何？なんだったの？
真奈美　これ。
母　これ？
真奈美　これを入れてくれって頼まれたの。
母　間違いない？これでいいの？
亘　さっきの人形じゃん。
母　これ、あんたが作ったものじゃないの？
真奈美　うん。
伯母　なんでこれ？そんなに大事そうなものには見えないけど。
真奈美　うん…
母　どういうことなの？
真奈美　うーん。
母　はっきりしなさい。
真奈美　これ、おばあちゃんに教えてもらって作った。
母　だから？
真奈美　初めて作ったやつ。
母　うん。で？
真奈美　すごく上手に出来てるって、おばあちゃんが。
亘　どこが。

母　（目で亘をたしなめ）それで？

真奈美　おじいちゃんにも見せてやりたいね。って。で、おじいちゃん死んでるから見せられないよって言ったら、じゃあ、おばあちゃんが死んだらお棺に入れてねって。そしたらおじいちゃんにも見せてあげられるからって。

亘　それって、意味違わない？

伯母　孫を褒めたって話かい？

亘　でも、これ？

伯母　自信をつけさせるためにさ。

亘　ああ。じいちゃんまで引っ張り出して。

伯母　切実な願いとかそういうんではなかったんだね。

亘　誰さ、成仏できないなんて言ったの。

伯母　もう、真奈ちゃん。

亘　言ったことも忘れてたと思うよ、ばあちゃん。

母　亘っ。

亘　何？

母　姉ちゃんも。

伯母　え？

落ち込んでいる真奈美

真奈美　もう、いい。
伯母　え？
真奈美　だから、これ。
亘　何？
真奈美　これ、入れなくていい。
母　せっかく探したんだから、入れてあげなさい。
真奈美　だって、大切なものじゃないもん。
母　おばあちゃん、きっと嬉しいよ。
真奈美　いい加減なこと言わないでよ。

却って落ち込む真奈美

間

母　小さいとき、真奈美、いっつもおばあちゃんと遊んでたでしょ。引っ越してからも、よくここに来てくれて。真奈美いたから、おばあちゃん寂しくなかったと思うよ。
真奈美　…
母　ありがとうね。
真奈美　…
母　入れてあげて。（人形を渡す）

真奈美　…入れてくる。
母　頼むね。
真奈美　うん。
伯母　指輪とか写真とか、お棺の中に入れるものまとめた箱があるから。そこに入れておいで。
真奈美　行ってくる。
伯母　うん。

真奈美、出ていく。亘も出ていこうとする

母　どこいくの
亘　もう一回寝るわ。
母　そう。ご飯のときに起こすね。
亘　はいよ。

亘、出ていく

伯母　とりあえず、見つかって良かったわ。
母　ごめんね、朝から騒がせて。
伯母　騒いでたほうがいいよ。気が紛れてさ。

母　そうだね。
伯母　うん。それにしてもさ、あたしたちのときなら考えられなかったよね。
母　何が？
伯母　あの人形。もしあたしがあんなの作ったら、絶対やり直しだったよね。
母　絶対。

そこへ敏行（叔父）がやってくる

叔父　お早う。
伯母　敏行。どうしたの？
叔父　シャワー浴びようと思ってさ。いやあ、飲みすぎたわ。
伯母　しっかりしなさいよ。
叔父　わかってるって。それよりさ、そこで真奈美ちゃんに会ったけど、どこ行ったの？
母　お寺。
叔父　お寺？こんな時間に？
伯母　それはいいから、ちょっと座りなさい。
叔父　えっ、シャワー、
伯母　まだ、時間あるでしょ。
叔父　この雰囲気は、お説教ですか。

伯母　いいから。仕事忙しいの？
叔父　全然。
伯母　だったら、どうして見舞いに来なかったの。入院してたっていうのに一回も来ないってのはどういうことよ。
叔父　床屋はさ、いつお客が来るかわからないから閉めてられないんだって。
伯母　定休日があるでしょ。
叔父　だって、母さんに行かなくていいのかって聞いたら、「いい」って言うからさ。
伯母　それでも来るのが親孝行でしょ。
叔父　電話で話したときは、元気そうだったから。
伯母　だから、それはあんたに心配かけまいとしたんでしょ。
叔父　まさかこんなに早く弱るとは思わなかったんだ。
伯母　誰も考えてなかったわよ。それは。
叔父　うん。
伯母　それでも良かったわ。なんとか間に合って。
叔父　ああ。
伯母　母さん、あんたのこと一番心配してたからね。
叔父　ああ。
伯母　母さん、心配して帰ってきちゃうかもよ。だいたいさ、あんたはさ、昔から、

廊下を老婆が通り過ぎる。敏行と目が合い軽く会釈

叔父　ええっ？
伯母　何？
叔父　なんか、人が通っていった。
伯母　誰？
叔父　なんか、婆さん。
母　何言ってるの。
叔父　いや、本当だって。
伯母　あんたさ、昔からそうやって人の話ちゃんと聞かないとこあるよ。

母、台所の方を見にいく

母　（声のみ）ああ、小母さん。
後藤　（声のみ）これ、フキの煮付け。

二人、戻ってきながら

後藤　松ちゃん好きだったからさ。
母　お隣の後藤さんの小母さん。
伯母　ああ。

叔父　（正座し）ご無沙汰してます。
後藤　お早うさん。いっつも勝手に上がらせてもらってたんだ。
伯母　はあ。
後藤　フキの煮付け。あんたたちの母さん、好きだったんだ。
伯母　ああ。
叔父　もう、フキ出てるんですか？
後藤　いいや。毎年さ、うちの息子が採ってきたら煮付けにしてもってきたのさ。でも、今年はまだだから、塩漬けしてあったの戻して。好きだったからさあ。朝ごはんにでも、みんなで食べて。美味しいから。
母　すみません。
伯母　いつも、お世話になって。ありがとうございます。
後藤　なんもだ。毎っ年、梅干漬けたのもらってたから。ギブアンドテイクってやつだ。
母　はあ。

そこへ真奈美が戻ってくる

真奈美　ただいま。あっ、おはようございます。
後藤　ああ、真奈ちゃん。お早うさん。
母　お帰り。お寺、どう？

真奈美　父さん、もう起きてた。
母　そう。
後藤　告別式、十時だったもね。
母　はい。
後藤　お参りさせてもらうから。
母　はい。
後藤　寂しくなるね。あんたたちも気落とすんじゃないよ。
三人　ありがとうございます。
後藤　したら、また。

後藤、帰る

叔父　小母さんって、いくつになったんだろう。
伯母　小母さんだって、もう八十近いんじゃない。
母　元気だね。
叔父　ああ。
真奈美　ねえ、お腹空いた。なんかないの？
母　今、お隣からもらったフキの煮付けならあるよ。
真奈美　フキ。ほかに何かないの？
母　もう少ししたら、朝ごはんの支度するから、待ってなさい。

真奈美　えーっ。
伯母　あのさ、めぐみちゃんのこと、母さん知ってた？
叔父　さあ、知らないと思うよ。
伯母　そう。
伯母　敏行、あんたちゃんとめぐみちゃんの相手の人に会ったの？
叔父　ああ。
伯母　籍は入れたんでしょ。何で知らせてくれないの。
叔父　それが、まだなんだわ。
伯母　ちょっとどういうことなの？
叔父　めぐみ、いずれ大学に復帰するつもりらしいんだ。
伯母　そうなの？だったら、別の選択肢だってあったでしょうに。
叔父　おろすってこと？
伯母　まあ。
叔父　それは考えなかったって。あいつ、ほら、自分は母親に捨てられたって思ってるから。
伯母　捨てられたようなもんでしょ。置いて出てったんだから。
叔父　そうだけどさ。
伯母　で？
叔父　ん？何？
伯母　相手の人。

叔父　ああ。相手はさ、同じ大学の先輩で、司法試験目指してるんだと。
伯母　へえ、大したもんじゃない。
叔父　まだ、受かったわけじゃないんだって。
伯母　そうなの。
叔父　うん。で、それに受かるまで籍を入れるのは認めないって。
伯母　それ、あんたが言ったの？
叔父　めぐみには幸せになってもらいたいからさ。やっぱり、相手はちゃんとした奴じゃなきゃと思って。
伯母　けっこうやるんでしょ。
叔父　勢いで。…言っちゃった。
伯母　大丈夫なの？
叔父　いや、相手が一人前になるまで面倒見るつもりだから。ただ、
伯母　そりゃあ、ねえ。
母　めぐみはなんて言ってるの？
叔父　絶対受かるから、それでいいって。
母　めぐみらしいわ。
伯母　ねえ。
叔父　ただ、
伯母　ただ、何？
叔父　母親になるって、どんな気持ちなんだ？

伯母　さあ？

叔父　トシ姉ちゃんならわかるよね。

母　そりゃ。

叔父　それでさ、相談なんだけど、子どもが生まれるまでめぐみについててやってくれないかな？あいつ平気な顔してるけど、不安なんだと思うんだよね。俺じゃわかんないからさ。頼むよ。

母　それくらいのこと、いいよ。

伯母　そうだね、あんたがついててくれたほうがめぐみちゃんも安心でしょ。

叔父　ありがとう。

母　任せて。生まれた後も、しばらくうちにいればいいし。

叔父　助かるよ。

伯母　でもさ、あんたんとこ狭くない？

母　ああ。そうしたら、めぐみにここに住んでもらって、わたしもこっちから通うようにするかな。

伯母　家の方は？

母　真奈美にさせればいいしょ。

伯母　大丈夫？

真奈美　大丈夫。

伯母　本当に？

母　まあ、それは告別式が終わってからゆっくり話そう。

伯母　そうだね。

叔父　ごめん。迷惑かけて。

母　なんも。

叔父　それじゃあ、シャワー浴びてくるわ。

叔父、出ていく

伯母　それにしてもさ、敏行がおじいちゃんとはねえ。

母　わからんもんだね。

叔父　（声のみ）めぐみーっ。替えのシャツどこだー？

伯母　それくらい自分で探しなさーい。もう。ああ、おじいちゃん靴下脱ぎっぱなしで。

めぐみが起きてくる

めぐみ　おはようございます。

伯母　敏行もねえ、もうちょっと寝かせといてあげればいいのに。ごめんね。

めぐみ　お腹空いて起きちゃった。

母　フキの煮付け、食べる？

めぐみ　わー、食べます食べます。

伯母　じゃあ、持ってこようかねえ。
めぐみ　すみません。ああ、それお父さんの。ごめんなさい。いっつも脱ぎっぱなしなんだから。

伯母、台所へ。めぐみは父親の靴下をたたむ

めぐみ　見つかった？
真奈美　見つかったよ。
めぐみ　なんだったの？
真奈美　人形。あたしが作ったやつ。
めぐみ　へー。良かったね。
真奈美　う、うん。

伯母、戻ってくる

伯母　はい。
めぐみ　ああ、美味しそう。いただきます。
母　何それ？
伯母　（母にもう一つ持っていた入れ物を見せ）台所にあったの。
母　ああ、こんなに。

伯母　ねえ。
真奈美　何？
母　梅干。
伯母　おばあちゃんのやつ。
真奈美　めぐちゃん、食べる？
めぐみ　うん。

めぐみ、梅干を口に放り込む

母　酸っぱくないの？
めぐみ　美味しいです。
伯母　毎年、送ってくれたよね。
母　うん。
伯母　うちなんかわたし一人だから、前の年の食べ終わる前に届いちゃって。そんなに沢山食べられないのに。ドーンって。
母　母さんの梅干、酸っぱいしね。
真奈美　（めぐみに）本当に酸っぱくない？
めぐみ　うん。わたし、好きだったんだ。おばあちゃんの梅干。
伯母　どれどれ。

母、伯母、それぞれ梅干を口に

伯母　酸っぱ。

母　本当。

顔を覆う二人。真奈美とめぐみ、ちょっと困って顔を見合わせる

母　さっ、ごはん、ごはん。

伯母　やりますか。

伯母、台所へ立っていく

母　ほら、あんたも手伝いなさい。

真奈美　えーっ、面倒くさい。

母　何言ってるの。あんたに付き合って夜中から起きてるんだよ、こっちは。今度は、あんたが付き合いなさい。

真奈美　何作るの？

母　梅干とおかかのおにぎりと、お味噌汁。

真奈美　何人分。

母　十人分くらいかな。

真奈美　じゃあ、母さんと伯母さんだけでいいじゃん。
母　面倒くさがってたら、一人暮らしなんて出来ないよ。どこに行ったってごはん支度ができればなんとかやってけるんだから。
真奈美　そのことなんだけどさ、大学、道内にしようかな。
母　どこ？
真奈美　大学はまだ決めてないんだけど、何かあったとき、家に近い方がいいかなって。
母　そういう甘い考えじゃね、
真奈美　そうじゃなくて、母さんや父さんに何かあったとき、
母　そんな心配してもらわなくてけっこうです。
真奈美　え、なんでそんなこと言うの？あたしはいろいろ考えて、
母　親のことなんか放っておいて、自分の好きなことしなさい。
真奈美　だから、自分でそう決めたんだって。
母　そんなのぜーんぜん、嬉しくない。
真奈美　そんな言い方しなくても、いいしょ。人がせっかく。
母　卒業までもう一年ないんだからね。ちゃんと考えなさいよ。

母、台所へ

真奈美　ちょっと、何あれ。わけわかんない。
めぐみ　仲、いいね。

真奈美　えーっ、どっこが。
めぐみ　いいよ、仲。

間

真奈美　ねえ。
めぐみ　何？
真奈美　おばあちゃん知ってたの？
めぐみ　うん。
真奈美　そう。知ってたんだ。なんて言ってた？
めぐみ　ひ孫が出来るって喜んでた。
真奈美　そっか。
めぐみ　うん。
真奈美　あっ、じゃあこれ。

おしめを取りに行き、めぐみに渡す

めぐみ　おばあちゃん。

おしめを見つめるめぐみ

真奈美　不安じゃない？
めぐみ　不安…だね。…でもさ。
真奈美　何？
めぐみ　お母さんになるんだから。
真奈美　そっか。
めぐみ　うん。
真奈美　触ってもいい？
めぐみ　いいよ。
真奈美　男の子？
めぐみ　女の子。
真奈美　へえ。

真奈美がめぐみのお腹に触れているところへ、母が入ってくる。手には、炊飯ジャー

母　　はい、おにぎり作るよ。
めぐみ　ここでですか？
真奈美　ここがいい。
母　　ね。めぐちゃんも、作る？

めぐみ　はい。

伯母、ラップと皿などを持って入ってくる

母　じゃあ、二人とも手洗っといで。

伯母　ラップあるから、いいしょ。

母　何、ラップって。

伯母　こう、ほら。（ラップでくるんで握るような手振り）

母　素手でしょ、おにぎりは。

めぐみ　わたしは、お椀にラップかけて、こう。

真奈美　えーっ、手でしょ。ねえ。

母　ねえ。

伯母　手につくしょ、ご飯。

真奈美　水つけないからだよ、それ。

などとワイワイ言っているところで、

幕

《参考文献》　「娘を傷つける母親の口癖」　金盛浦子　青樹社